

第二期 倫理部会 第10回会合 議事メモ

日時:2020年10月31日 13:30～

手法:ZOOM

【人間の質の低下は日本の教育に原因があるではないか】

- ・明治維新以降の教育、管理型の教育が続いている。ドイツは戦後改善したのに日本はそのまま。
- ・政治が教育を支配しているのでは？ベースとなる教育はどうあるべき？文科省で定める、上から決めていく教育の形でいいのか？そうした疑問が湧いてくる。
- ・文科省が一律にやっていることが問題。ドイツではシュタイナー教育が浸透している。人間の為に社会があるのか、社会の為の人間か。ドイツでは前者で、そのあたりを明確にしている。
- ・明治以降、人間が社会のための道具になっている。戦争の為の人材から経済の為の人材へと変わっているだけ。教育費は人的費用としてカウントされる。
- ・教育基本法では「人格の完成を目指し、平和的国家を形成する」とあるが、人格の完成がおろそかになっているのではないか。
- ・人としての尊厳、生命を大切にすることが忘れられている。
- ・日本は世の中の時に応じて能力を付ける社会になっている。
⇒ドイツは人間のための社会。日本も江戸時代は個々にあった学習スタイルを確立していた。
- ・人間の部品化をどうやって阻止できるか？なかなか難しい
- ・そういう教育の重要性に多くの国民は気が付いていないのでは？
- ・個々の国民が社会の責任、人間の責任とは何かを考える機会を設けることが大事。
- ・しつけと教育とは区別をつけて考えるべき。家庭教育、義務教育、高等教育、社会教育など、それぞれと手法は違ってくる。
- ・カルチャーとして人間を大事にするということが入っているかどうか？⇒今は薄れている

【教育システムについて】

- ・教育システムだったら小学校が大事なのでは？
- ・社会の入り口だから大学が大事なのでは？
- ・それぞれ大切だが、効果的などころから考えていくのも一つの方法。
- ・社会像を据えて教育の議論をしていくべき
 - ①人格の完成の教育⇒どの時代にもあてはまる
 - ②社会人として教育
 - ・赤ちゃんの時は白紙⇒まわりの影響を受けて人格が形成される⇒この人で社会が形成される
 - ・人・生命を尊厳とすること⇒環境を大切にすること
 - ・教育者(親)が弱くなってきている⇒日本だけなのか、世界的な流れなのか
 - ・日本の子どもの幸せ度が低いという調査結果がある

- ⇨その原因の一つとして親とのコミュニケーションが少ない事が挙げられる
- ⇒働き方も関係してくる(日本は共働き・母子家庭が厳しい)
- ・コロナで家庭教育が増えてきて、そこで教育の大変さが分かったのでは？

【社会のための個人か？個人のための社会か？】

- ・個人も社会も両方考えることが大事なのは？自分だけでは生きていけないから他人も大切
- ・アメリカ的利己主義は良くない。人間を大切にしていない
- ・個人も他人も大切にできる感覚が必要

【倫理とシステムについて】

- ・倫理とはある行動の大原則。それとシステムは双方向に関係する
- ・システムの中で教育・経済の内容を討議するのはどうか？
 - システム・・・ 教育、経済、消費、意思決定、…………
 - ↓↑
 - 倫理 …… 人を大切にする
- ・社会の構造を変えるとき、どこから変えるか？教育から？
- ・政治、経済、技術を司るのは人間。だからやはり教育が原点になるのではないか。
- 持続可能な社会にとって、例えば、管理型の教育がいいのか、どうか、など、常に持続可能な社会を大前提に考えていく。
- ・SDGsの中からいくつかの提案を選んでやっていく方法もある。
- ・人を大切にすることが持続性に繋がる。そのためには環境も大切だし、ある程度の経済も大切。
 - ⇒人を大切にするととは、どんな人を想定しているか？
 - ⇒人を部品扱いしてない こと
- ・より良い生活とは何か、深掘りすることも必要
- 現在の経済は、儲かる人が勝つ仕組み。力を持つことが重要という仕組み。これを変えるには規制等が必要。一方教育などは違うメカニズムで良識に従ったシステム。
- ・よい欲は伸ばし、強欲は抑制するような内容

【構成】

システム 例：消費、地産地消 ⇨ 経済の仕組みを変える、
 少人数学級？基本法見直し？大学教育の見直し？⇨教育の仕組みを変える
 ↓ ↑
 意思決定システム ⇨ 政治のしくみを変える

(環境) 倫理 例：人を大切にする社会